

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護体験演習		必修	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
山本 富士子 他	402	f.yamamoto	金曜日 17:30～18:00		
授業の目的・概要	これから学ぶ看護学についての理解を深めるために、看護専門職者から実際に行われている看護実践の場と看護の対象について学ぶ。 様々な看護の対象者に関わる看護専門職者から、地域も含めた看護の現場で行われている看護の実際を聴くことで、自身の看護師像を考える。また、入院生活を送る一般病棟・老健施設・障害児病棟や在宅での療養などの生活の場や、看護の対象者の発達段階・健康レベルから、生活の特徴および看護の関わりを理解し、看護専門職者の役割を学ぶ。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	看護学概論で学んだ「看護とは」「社会の変化と看護の役割機能」「保健・医療・福祉の連携」について復習しておくこと。また、まわりにいる疾患を持ちながら地域で生活している人々、高齢者や子どもに会ったときは、積極的に関わるようにすること。				
教科書	教科書は指定しない。 必要に応じて資料を配布する。				
参考書	必要時紹介する。				
外部教材	適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護活動の場及び対象者の多様性について説明できる。		HSU(1),NS(1)～(4)		
②	地域の人々の生活を知り、健康増進や介護予防の必要性を理解できる。		NS(1)(2)(3)		
③	健康増進及び介護予防、医療を必要とする対象者に関わる看護職の役割を説明できる。		HSU(3),NS(2)(3)(4)		
④	看護職を目指すためにどのような学修を重ねていく必要があるか考えることができる。		NS(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーション 授業の目的や目標、スケジュールを理解し、主体的に学ぶ準備を行う	講義	看護学概論の資料を読み直し、授業に挑む。	1	
2	①看護の提供されている場を知る 看護の実際について知る	講義	様々な場所で働く看護職の役割についてまとめる。	1	
3・4	②健康を回復するための病院の役割機能を知る	講義・演習	自分の生活圏内には、どのような病院があるか事前学習する。病院の役割について考えをまとめる。	2	
5・6	③様々な場で生活する対象者を理解する(在宅・施設)	講義・演習	看護の対象となる人々について調べ、まとめる。	1	
7~10	④地域で生活する人々の生活を捉える(母子・高齢者・障がい者)	講義・演習	看護の対象となる人々の生活について調べ、まとめる。	5	
11・12	⑤地域で生活する人々から健康や健康増進方法について聴く	講義・演習	実際に交流して学んだことをまとめる。	2	
13	⑥地域における看護職の役割機能について知る	講義・演習	病院以外で働く看護職について考えをまとめる。	1	
14・15	学習成果のまとめ、発表会 看護職を目指す上で必要な心構えについて考える 自身の看護師像について考える	個人課題 ・ グループワーク	授業を振り返り、看護職者の視点から考える看護の対象への学び、看護職を目指すために必要なことをまとめる。自身の看護師像について考えをまとめる。	2	
試	達成度評価・評価のポイント参照				

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

		達成度評価						
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	0	50	25	10	15	100	
	思考・推論・創造する力	0	5	0	0	0	5	
	思考・推論・創造する力	0	15	0	5	0	20	
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	5	10	
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15	
	コミュニケーション力	0	0	5	0	5	10	
	取組みの姿勢・意欲	0	15	5	5	5	30	
問題を発見・解決する力	0	5	5	0	0	10		
評価のポイント							フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点						
試験	①							
	②							
	③							
	④							
レポート	①	✓	授業のまとめとして、レポートを提出する。テーマおよび字数等の様式など詳細については、オリエンテーション時に説明する。					テーマに基づいた内容であるかを確認し、コメントする。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
成果発表	①	✓						
	②	✓	それぞれの授業テーマを通して体験したことや感じたことをグループで話し合い、学びや今後の学修への課題をまとめる。その後、全体で発表する。					グループ発表内容に助言を行う。
	③	✓						
	④	✓						
ポートフォリオ	①							
	②		本授業で作成したレポートをファイルにて整理し、レポート提出時は指示された内容に従い記録が整えられたものを提出すること。					内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	③							
	④	✓						
その他	①	✓						
	②	✓	授業における姿勢や態度については、日々の課題学習や記録物への取り組みなどを含めて総合的に評価する。授業前から自己の健康管理を行い学習に臨むこと。					十分な学びの機会が得られるよう、授業への姿勢や体調管理について適宜指導を行う。
	③	✓						
	④	✓						
備 考								
他 担 当 教 員	馬淵路子							
教員の実務経験	主となる担当教員は看護職として15年以上の臨床経験を有している。 他担当教員は看護職として5年以上、10年以上の臨床経験を有している。							
実践的授業の内容	この科目は、担当教員が看護実践で得た経験をもとに、保健師など臨床のみでなく、地域も含めた看護の現場で行われている看護の実際を紹介しつつ、看護の対象となる人々の理解を深め、実際の看護の場面を学ぶことを通じて、看護実践の意味を理解できるよう授業を進める。							
そ の 他	登校の際は、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。 今後の社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性がある。							